

「あなたは佐々木昭一郎を知っていますか？」

佐々木昭一郎氏を語る時、必ず最初に出てくる言葉です。

佐々木氏は60年代後半からNHKのディレクターとして独自の詩的なドラマを制作。

その言葉、音、映像の美しさに人びとは驚嘆しました。

国内外で数々の賞を受賞しながら、国内では意外なほど「知られざる」映像作家。

そんな佐々木昭一郎氏が創作の源、作品の思い出、そして新作について語る、福岡で初めての講演会です。

四季・ユートピアノ

Four Seasons - UTOPIANO



若い女性榮子の、音にまつわる罪の意識を描いたこの作品は、数ある佐々木作品のなかでもひとつの頂点を感じさせ、人気が高い。ベートーベンのピアノソナタ、マーラー交響曲、バッハ「主よ、人ののぞみの喜びを」など西洋音楽の音、ピアノの音を中心に「音の日記」をたどる旅。四季のように移り変わる歲月の中で出会い、去っていったものへの愛惜を語る。

「夢は風の中に聞こえるあの音。虹色の7つの音よ。雪の日に消えたあの音。風を歌えよ。Aの音から」

アンダルシアの虹

A Rainbow in Andalsia



スペイン・アンダルシア地方で生活しているあるジプシーの家族と、日本人の主人公榮子との交流を描く。川シリーズの第2作目。鍛冶屋のペペ、洞穴掘りの名人マヌエル、数学嫌いの少年ホアン、フラメンコ・ダンサーのピーリー、ギター作りのアルファンソなど、ほとんど現地のジプシーの人びと。マヌエルは「ドラマを演じたのではなく、人生の一部であった」と語ったという。

中尾幸世さんが1番好きな作品、と挙げたのが本作。

「マノス、マノス、マノス (MANOS) 手、手、手 音をつかむ 手。仕事をする 手。アルホンソの 手。マヌエルの 手。ペペの 手」



佐々木昭一郎氏・プロフィール

1936年、東京生まれ。立教大学経済学部卒。1960年NHKに入る。ラジオ芸芸部に所属。1961年「手は手、足は足」(宮本研脚本)でドラマ初演出。1966年テレビドラマ部に移る。1995年NHK退職。文教大学教授として映像制作などを指導。2006年退職。現在テレビマンユニオン・フリーディレクター。

1984年芸術選奨文部大臣賞、放送文化基金賞優秀個人賞、毎日芸術賞受賞ほか作品の海外評価は高く、数々の賞を受賞している。

1985年京都・ピッコロフェームで佐々木作品の上映会が開催。

1990年代後半にNHKアーカイブスで「四季・ユートピアノ」「川の流ればバイオリンの音」が再映され話題になる。

2001年第11回多摩映画祭で「RESPECT佐々木昭一郎」を開催。佐々木氏と氏の作品に数多く主演している中尾幸世さん、是枝裕和監督との対談は人気を集めた。翌2002年も多摩映画祭で佐々木特集を開催。同じ人物の作品と対談を2年続けるほど好評だったことが伺える。

以来2003年横浜放送ライブラリー「佐々木昭一郎の世界」、早稲田大学での講演、2004年NHK放送博物館での個展とトークショー、科学会館でのイベントなど佐々木氏と作品へ再び注目が集まった。

2006年6月にはCS(日本映画専門チャンネル)で全16作品が放送。

昨年、NHK時代の上司であった吉田直哉氏が亡くなった際には、月刊ドラマ12月号・1月号にて当時を語る追悼文を寄稿。さらに吉田氏が創設に尽力した武蔵野美術大学映像学科で2度にわたり講演。今年は2月末に第5回シネアスト・オーガニゼーション・大阪エキシビジョン(CO2映画祭)で最終審査員を務め、青山真治監督と対談した。



地下鉄 福岡空港～西新駅下車…約17分
博多駅～西新駅下車…約12分
天神～西新駅下車…約8分
※地下鉄西新駅から徒歩5分

バス 博多駅バスセンター～修善館前…約35分
天神～修善館前…約20分
※修善館前バス停から徒歩5分

タクシー 福岡空港～(福岡都市高速百道ランプ)～大学…約25分
博多駅～(福岡都市高速百道ランプ)～大学…約20分
天神～(福岡都市高速百道ランプ)～大学…約15分